
Fifty three

阿多河葉月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Fif t y th r ee

【NZコード】

N2404D

【作者名】

阿多河葉月

【あらすじ】

さして目立つことのない高校で、ありえないような失踪・殺人事件があきた。現場には必ず破かれたトランプが落ちているという奇妙なこの事件を、様々な形で事件に関わる53人の人々の視点から解く学園推理サスペンス！

初夏、五月の毎。当り前のようにこの街に建つ私の通う私立高校。今日もまた、いつもと同じ飽き飽きする学校ライフが待ち構えているのかと思っていた、その事件がおきるまでは……。
ペペペペペペペペ・・・ 今日も私の部屋で七時を伝える目覚し時計がなっている。起きたくないなと思いつつも、あのうるさい母さんに怒鳴られるのも癪だし、遅刻して先生に大目玉食つのも嫌だから私は起きることにした。カチヤツ、目覚ましを止めて起き上がり窓の外を見ると、外は気持ちよく晴れていた。私は制服に着替え、母さんが怒鳴る前に1階へと降りて行つた。

「おはよう、鈴。朝御飯食べなさい。」

いつもの会話、私は母さんの言つどつりに朝御飯を食べ足早に家を出た。

私の家は群馬県秋架市のじく普通な住宅地にあつた。そこから徒歩10分、自転車で約5分の道のりを毎日自転車で通つている。いつも通る商店街は、まだ開いている店も少ないため閑散としていた。いつもと変わらない、面白みもない日常の風景に鈴は飽き飽きとしていた。

「おはよう鈴いー。」

教室についた私に一番に話し掛けてきたのは、クラスメイトの森^モ山千佳だった。

「ああ、おはよ千佳。」

私はいつも道理の愛想のない挨拶をし、一番奥の自分の席に着いた。朝のホームルームまで後20分、私はその時間までなにしようか考えた挙句、それまで寝ることにした。

ホームルーム開始の鐘が鳴り、担任が入ってきて適当に朝の挨拶・

・・・・。

・・・・・と、思つていていた。

入ってきた担任、泉幸一はいつもはダラダラのジャージのくせに今日はなぜかきつちりとしたスーツだった。教室がシーンとしている中、泉は口を開けた。

「知つている人もいると思いますが、先日、ウチのクラスの高嶋凌君が失踪しました・・・・・。」

教室がざわめく、慌てて高嶋の席を見るが確かに高嶋は居なかつた。

「うじて始まった、この学校のいつもと変わらない非日常な事件が・・・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2404d/>

Fifty three

2010年11月24日05時48分発行